

第 2 回 高 校 生 東 南 ア ジ ア 小 論 文
コ ン テ ス ト

優 秀 賞

清 真 学 園 高 等 学 校 1 年

和 田 凜 々 子 さ ん

第2回優秀賞作品

和田凜々子さん（ベトナム部門）

【本文】

私は、『病院船』によって、日本とベトナムをつなぐ夢を描いている。かつて、『朱印船』が両国を結んだように、互いの国民の健康と福祉の増進のための新たな交流が始まると期待している。

2018年6月、私は、戦後初めて日本に寄港したアメリカ海軍の病院船『マーシー』を見学する機会を得た。それは東日本大震災で大きな被害があった青森、岩手、宮城、福島、茨城の5県から医療従事者を目指す中高生が招待されたプログラムだった。私はこの体験を通して、紛争や災害時の国際医療支援について深く考えさせられた。船内は広さも設備も全てにおいて私の想像をはるかに超えていたが、最も強く印象に残ったのは船内に飾ってあった写真であった。この船が『パシフィックパートナーシップ2018』において世界各国を巡り医療支援活動を行っている様子を撮影したものであった。また、日本に寄港する

第2回優秀賞作品

和田凜々子さん（ベトナム部門）

直前に撮影されたベトナムで活動していたと聞いた。

後日、当コンテストの課題となった記事を読んだ。朱印船が両国の交流が発展することに寄与した証として、そのレプリカが海を渡ってベトナムに寄贈されたという内容だったが、私の中でマーシーの乗船経験とこの記事がぴったりと重なった。

現在、ベトナムは東南アジア諸国連合（ASEAN）に加盟している。もともとASEANは、インドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ、フィリピンが加盟する反共政治同盟であったが、1995年にベトナムが加盟した後からは、経済・社会・政治・安全保障・文化などさまざまな分野での地域協力を進めている。しかし、地域の医療や福祉についてはどうだろうか。まだ協力できる余地があるのではないだろうか。

例えば、東南アジアや日本は地震や台風、豪雨などの自然災害が多く、ひとたび災害に

第2回優秀賞作品

和田凜々子さん（ベトナム部門）

見舞われると高温多湿の環境から衛生状況が悪化し二次災害が発生する。このように共通した自然環境の下にある国々ならば災害医療においてもきっと協働できるはずだ。『朱印船』は、当時日本とベトナムなどの東南アジア各地を結んで交易を支えてきた船である。同様に、今こそ日本とベトナムを『病院船』という新しい絆で結び、協力体制・信頼関係を築いていくチャンスではないか。ひいては両国だけではなく、東南アジアの人々の健康や福祉の増進に寄与し、持続可能社会を目指すことができるのではないだろうか。私は将来、医師として海を越えて世界中の人々の健康と幸せを守りたいと考えている。日本とベトナムをつなぐ『病院船』にその思いを馳せた。

第2回優秀賞作品

和田凜々子さん（ベトナム部門）

参 考 文 献 :

[ホーム ページ]

外 務 省 国 ・ 地 域

公 益 社 団 法 人 モ バ イ ル ・ ホ ス ピ タ ル ・ イ ン タ ー ナ

シ ョ ナ ル

防 衛 省 ・ 自 衛 隊

パ シ フ ィ ッ ク ・ パ ー ト ナ ー シ ッ プ 2 0 1 7 に つ い て

パ シ フ ィ ッ ク ・ パ ー ト ナ ー シ ッ プ 2 0 1 8

By 外 務 省 (Y o u T u b e)

A S E A N の 5 0 年 と 日 本

By 映 像 授 業 T r y I T (Y o u T u b e)

【 高 校 地 理 】 東 南 ア ジ ア 6 東 南 ア ジ ア 諸 国 連 合 (

1 7 分)

[書 籍]

「 病 院 船 」 が 日 本 を 救 う 海 洋 国 ・ 災 害 多 発 国 日

本 に 今 必 要 な も の

株 式 会 社 へ る す 出 版 事 業 部 砂 田 向 壱